

第 37 回 中華料理とホームズの推論

上海の衡山路 (旧称 :アベニュー ペタン) といえはマロニエの街路樹にエキゾチックな趣を留める戦前のフランス租界地であり、そこに旧資本家の邸宅を改造した楊家厨房 (Yang 's Kitchen) という上海料理屋がある。最近では日本の観光ガイドブックでも紹介されているらしく、毎晩国内外の食漢や酔漢たちで賑わっているようだ。駐在時代には接待でもプライベートでも頻繁に利用した安くて美味しいレストランである。

ある晩、部下の駐在員と2人で夕食に入ったときのこと、一番奥まったやや薄暗いテーブルで某銀行の支店長が美しい女性と食事をしているのを発見した。武士の情けというか、騎士道精神というべきか、要は気付かないふりをしたのだが、ビールのお代わりを頼んだとき偶然目が合ってしまう、やむなく目礼を交わした。彼は気まずそうな表情を浮かべ、オロオロしている。狼狽するくらいならこんな有名レストランに連れて来なければ良いのにとと思うが、こちらは気まずくも何ともない。楽しい酒席の話題が見つかったので早速部下に「キミ あの沈魚落雁の如き美女は一体何者だろう」と青島ビールを片手に尋ねた。

部下はよほど腹が減っているのか、ぶっきらぼうに「誰でもいいじゃないですか。それに、あのくそ真面目な支店長に限って妙な関係ではないでしょう。きっと日本からやって来た出張者か、親戚の女性ですよ。」と言いながら酢豚にかぶりついている。

「ワトソン君！キミの観察力はその程度かね。吾が灰色の脳細胞は極めて昵懇な関係にある上海小姐だとの結論に達しているのだが」

「げっ！なぜ特殊関係人と断定するのですか？」

小職、だてに総代表を拝命しているわけではない。見たまえ、知人や親戚の女性だったら向かい合って座るだろう。(正方形の席の)隣にはまず座らない。おまけに2人の椅子が相当近寄っているのが見てとれる。次に彼の右脇に黒いカバンが置いてあるが、これは公用車を帰したからに他ならない。温めた紹興酒を好む彼がバケツに冷やした白ワインを飲んでいるのは不純な動機を暗示している。決定打は彼女の食べ方だ。彼女はさっきから鶏のカラアゲのような料理を箸でつまんでは直接口に放り込んでい、これは震旦の流儀であり和風ではない。大和撫子ならば料理を一旦は取り皿に着地させるはずだ。ついでに言えば、彼女は中国茶とワインを交互に飲んでいるようだが、これも日本流ではないだろう。」

ワトソン君はそれでも納得せず不得要領といった顔でガシガシと豚骨を齧っていたが、そのうち彼女が部屋中に響くような甲高い上海語で「ワイン、もう一本ちょうだい〜！」と叫び、支店長はその刹那やんぬるかなと天を仰ぎ、難問は一気に解決した。

箸を常用する国は中国の文化的影響を受けたアジア諸国だが、それぞれ食べ方の流儀は異なるものだ。時代は更に遡り、留学中の1981年のこと、華東師範大学がフィールドワークとして日本人留学生た

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

1/3

ちを上海郊外の人民公社に案内してくれた。(既に中国の改革は始まり人民公社は解体されていたはずであり、人民公社という名称だけが残っていたのだらう)そこで田んぼの農作業や養豚風景、農村工場などを見学したあと、村長さんに人民公社の食堂で昼食をご馳走になった。10人掛けの円卓が3卓用意されており着席すると、各人の前に箸とチリレンゲ(陶製スプーン)、それに醤油皿が一枚置いてある。そのうち美味そうな大皿料理が陸續と運ばれてきたが、取り皿は一向に來ない。目の前の醤油皿には濃い中国醤油が差してあるので料理は置けない。途方に暮れて左右を見回すと、どうもそれで問題ないようである。案内してくれた先生や村長たちは美味しそうに料理を箸でつまんで直接口に投げ込んでいる。子供のころ家でそんな食い方をすれば母親に叱られたものだが、中国には中国の常識があるものだと了解して中国流で食べることにした。人民食堂の料理は素朴な田舎料理だが、菜種油を使っているらしく味が濃くて大変美味しい。東海ビールというやや泥臭いビールによく合う。中華料理の最後はスープで締めくくることになっており、おなか一杯になったところにアヒルの切り身や水かきが浮かんだ白濁した大きなスープが運ばれてきて、テーブルの真ん中に置かれた。当然お椀に分けて飲むのだらうと思ったのだが、お椀もなければオタマも見当たらない。すると横に座った村長先生たちはやおら猿臂を伸ばし、チリレンゲで掬ってずるずる飲み始めるではないか。もう少しで椅子から転がり落ちるところだった。わが故郷でもこんな飲み方は経験がない。郷に入れば郷に従えとはいうものの、広島のご先祖様に申し訳ないと思いアヒルスープだけは諦めた。

その中国も、最近北京や上海の中華料理屋では海外からの観光客に配慮して、取り分け用の箸を用意するのは当たり前、ナイフやフォークまで用意するところも出てきた。料理ごとに皿を変えるのも常態化しつつあるようだ。それはそれで清潔で料理の味も失われず気持ち良いのだが、せっかく中国に來たからには中国3000年の歴史的な作法で山海の珍味を味わいたいとも思うのである。(了)

平成21年11月16日

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号
日本証券業協会 加入
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 03-5117-1040

ご投資にあたっての注意事項

手数料等およびリスクについて

株式の手数料等およびリスクについて

- 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大 1.2075% (税込み) (約定代金が 260,869 円以下の場合、3,150 円 (税込み)) の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。

国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

- 外国株式等の売買取引には、売買金額 (現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額) に対して最大 0.8400% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

債券の手数料等およびリスクについて

- 非上場債券を募集、売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

投資信託の手数料等およびリスクについて

- 投資信託のお取引にあたっては、申込 (一部の投資信託は換金) 手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。

投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大 0.0840% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大 4.20% (税込み) (約定代金が 2,625 円に満たない場合は、2,625 円 (税込み)) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

3/3